

令和4年度イカナゴ仔稚魚調査結果概要

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

令和5年1月6～13日（1次調査）、および1月22～29日（2次調査）に、備讃瀬戸および播磨灘西部においてイカナゴ仔稚魚調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は備讃瀬戸および播磨灘西部におけるイカナゴ仔稚魚の分布密度を明らかにし、瀬戸内海東部海域全体における資源管理のためのデータ取得と情報提供を目的としています。

調査方法

調査船こたか丸により、ボンゴネット（目合 $335\mu\text{m}$ 、図1）を海底-5mまで下ろして10秒間水平曳きからの傾斜曳き（船速2ノット、巻上げ速度 $0.3\sim 0.5\text{m/秒}$ ）を、岡山県および香川県の定線調査点から各8調査点、および播磨灘西部の1調査点の計17調査点（図2）にて実施した。

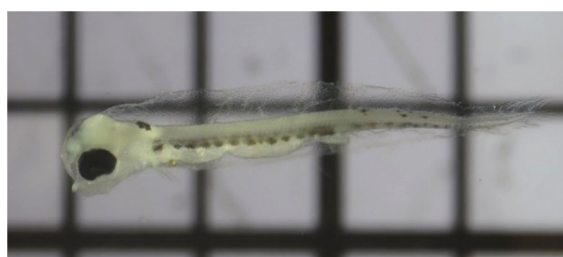
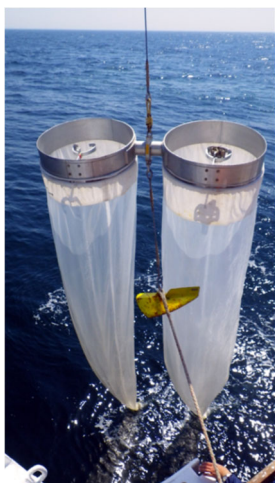


図1 左：ボンゴネット、右：イカナゴ仔魚（背景の格子一辺は1mm）

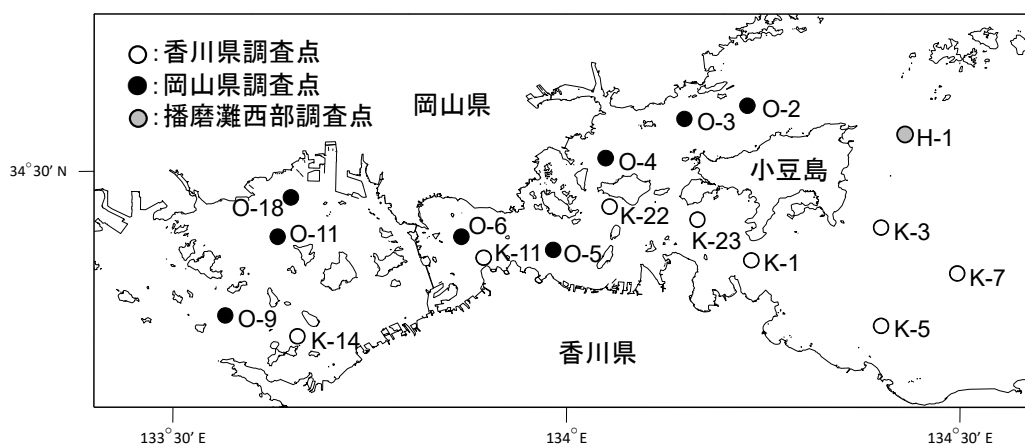


図2 調査点配置

1. 仔稚魚の出現状況（ボンゴネット左側採集結果を1m²水柱あたりに換算、図3）

1) 1次調査（1月6～13日）

備讃瀬戸（O-4,5,6、K-22）で平均0.8尾出現した一方で、播磨灘西部では出現しなかった。仔魚は主に備讃瀬戸中央部に出現した。なお、本調査は仔魚の孵化が完了する前に実施されたと考えられ、今期発生した主群の把握には至っていない可能性がある。

2) 2次調査（1月22～29日）

備讃瀬戸（O-4,5,6,9,18、K-11,14,22,23）で平均13.7尾、播磨灘西部（O-2,3、K-1,3,5,7）で平均1.8尾出現し、仔稚魚は主に備讃瀬戸中央部～播磨灘西部にかけて出現した。

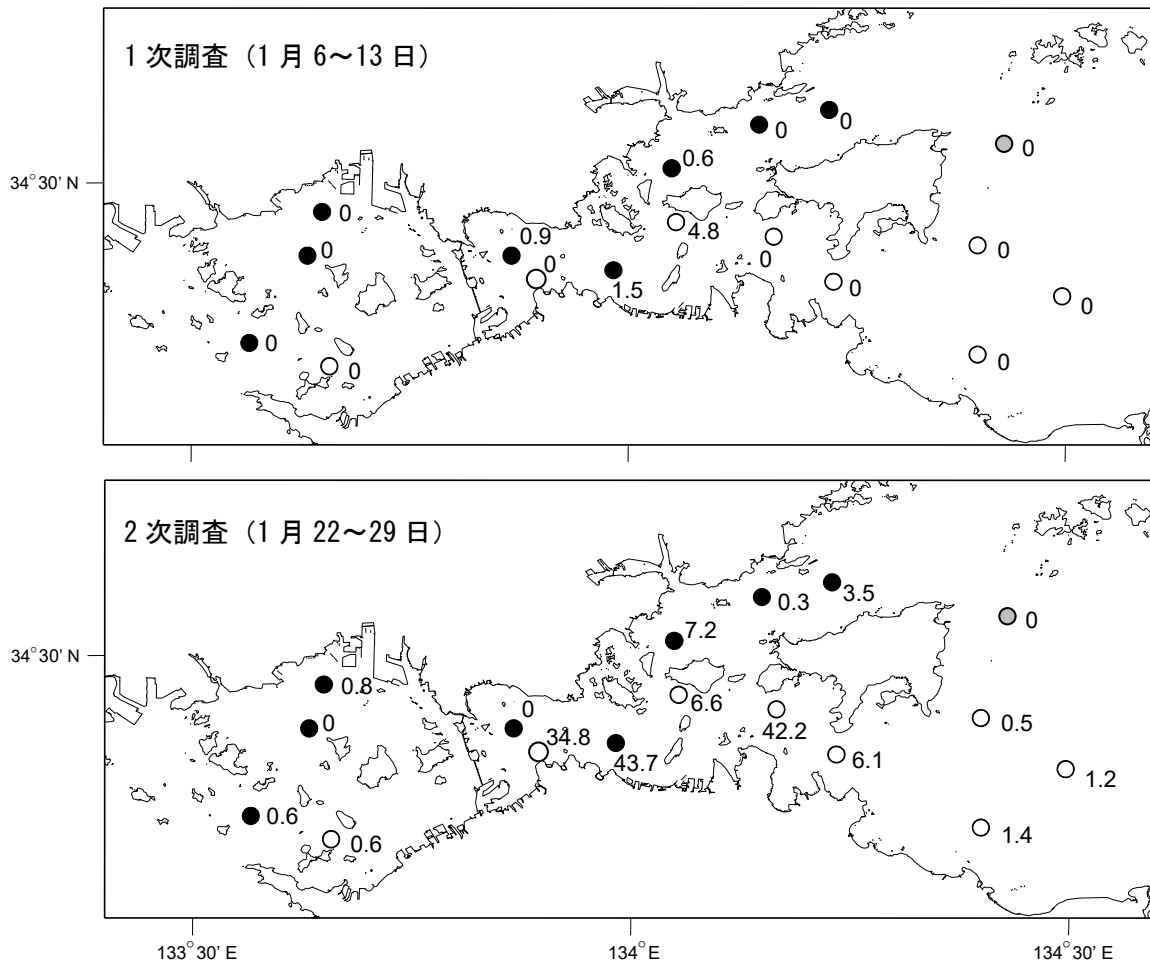


図3 各調査点におけるイカナゴ仔稚魚の採集尾数（ボンゴネット左側：1m²水柱あたりに換算）

表 海域ごとの仔稚魚平均採集尾数の推移（1m²水柱あたり）

海域	今年	昨年
備讃瀬戸（1次）	0.8	42.6
備讃瀬戸（2次）	13.7	8.1
播磨灘西部（1次）	0.0	0.0
播磨灘西部（2次）	1.8	3.1

2. イカナゴ仔稚魚のサイズ組成 (図4)

1) 1次調査 (1月6~13日)

備讃瀬戸で平均脊索長 3.72mm、油球を保持した孵化直後数日以内とみられる個体が得られた。播磨灘西部では仔稚魚は得られなかった。

2) 2次調査 (1月22~29日)

平均脊索長は備讃瀬戸で 8.15mm、播磨灘西部で 9.92mm となり、備讃瀬戸では1次調査時より大型の個体が採集された。サイズ組成は両海域とも概ね単峰型で、孵化のタイミングが集中していたことが示唆された。

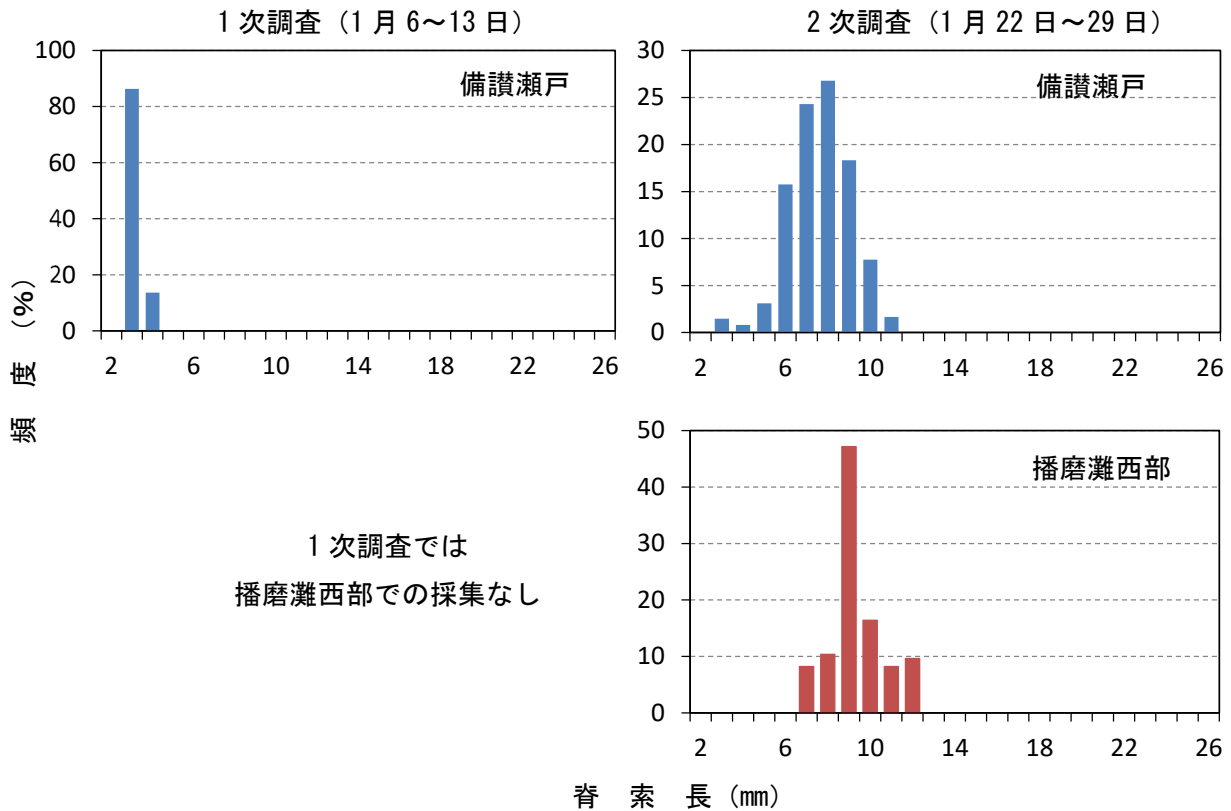


図4 イカナゴ仔稚魚の脊索長組成

本調査は水産庁「水産資源調査・評価推進委託事業」の一環で実施されている。

お問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

(担当：浮魚資源部 浮魚第2グループ 高橋)

TEL：0829-55-3593 FAX：0829-54-1216

E-mail：mtaka8@affrc.go.jp